

豊川、蒲郡両市に

AED4台ずつ寄贈

豊橋ハートセンター

豊橋ハートセンター

(豊橋市大山町、鈴木孝彦院長)は30日、自動体外除細動器(AED)を豊川市と蒲郡市にそれぞれ4台(約260万円)ずつ寄贈した。先日、新城市に3台、田原市に3台、渥美町に1台贈呈し、4月に豊橋市に13台と、全部で約30台の寄贈を予定している。

豊川市では同日午前、豊川市長室で受納式を行った。鈴木院長は、昨年7月から一般市民もAEDを使用できるようになったため、県が県立高校を中心に266施設に配備することを例に挙げ、

「東三河地区の救命率を上げたいので、呼び水に

なればと思っている。1分以内にAEDを行えば、90%は助かる。優秀な医者より大切な存在」と説明した。中野市長は、小学生でもできるという操作方法を教わった後、「豊川

宝飯以外から寄贈していただき、ありがたい」と感謝状を渡した。

スポーツ中の心臓突然死を防ぐために豊川市総合体育館に1台設置するほか、本署、東分署、西

分署の消防ポンプ車にそれぞれ1台ずつ積載する予定。これで管轄内のポンプ車全7台にすべて装備されることになった。

鈴木院長(右)から操作方法を教わる中野市長(右から2番目)

